

## 温泉知サロン事始め

○中嶋 克成, 寺田 篤史, 鏡 裕行 (周南公立大学・温泉知研究会)

### 1. はじめに

本発表では、「温泉知研究会」<sup>1)</sup>が環境省「令和4年度新・湯治コンテンツモデル調査」の採択を受けて実施している現地滞在者向け体験プログラム型「温泉知サロン」の実践事例について報告する。「新・湯治コンテンツモデル調査」は、環境省が実施する令和4年度「チーム 新・湯治」<sup>2)</sup>運営等実施業務の一環として、チーム員間の連携や交流から、温泉地活性化のための新たなコンテンツを創出することを目的として、モデル調査を実施し、その効果及び有用性の発信を行うものである<sup>3)</sup>。

本発表で取り扱う事例「温泉地サロン」は山口県周南市にある湯野温泉で実施している。湯野温泉は、「防長三名湯」の一つで、特にラジウムが豊富に含まれている。古くから湯治としても利用され、美肌効果も高い温泉である<sup>4)</sup>。少子高齢化による人材不足、後継者不足による旅館や商店の廃業によって地域全体の活力が低下するなどあらゆる課題に直面している。反面、こうした地域課題は学生にとっては「課題解決力」を高める格好の「学びの場」である。実際に当研究会メンバーは学生が地域課題解決に取り組む課題解決型授業「地域ゼミ」をこの湯野温泉で行っている。当温泉地はしかし同じ周南市に所在する「大学」という資源を未だ活かさずにはいない。当研究会のメンバーの専門知識もまた温泉地の魅力を高める「観光資源」なりうる。すなわち温泉地は一般向けの「学びの場」となりうると考え、「温泉×学知」を志向するコンテンツモデル（「温泉知サロン」含む）を実施するに至った。

### 2. 事例の概要

本コンテンツモデルは次の2つの企画から成る。

- ①地域協力活動プログラム：温泉地の関係人口を増やし将来的には人材獲得や地域全体の活性化を図る事を目的として、参加者が地域課題を解決しながら地域資源の理解を深め、温泉地の魅力を味わうプログラムを企画する。
- ②温泉知プログラム：大学の研究者を囲んだ座談会形式の宴と温泉入浴を組合わせた、所謂「哲学カフェ」「サイエンスカフェ」を湯野温泉で開催する。温泉利用者が地元大学の擁する学知とともに温泉地の魅力を味わう企画となる。

このうち本発表では②「温泉地サロン」について報告する。

### 3. 温泉地サロンの実際

「温泉地サロン」では、様々なテーマで「哲学カフェ」「サイエンスカフェ」形式の座談会を開催する。サロンは比較的長時間を想定して、特産品を中心とした飲食物が提供され、また入浴のための入退出を自由とする。参加者は、当研究会メンバーの大学教員のファシリテートのもとテーマについての思索を深めていくことで学問知に触れると同時に、当温泉地の魅力を味わうこととなる。

今年度は、ひとまず合計3回モデル調査を行い、その効果測定を行う予定である。

3回のテーマ及び場所は以下の通りである。

第1回	10月18日	湯野温泉・紫水園	：テーマ「出会う」	ファシリテーター	寺田篤史
第2回	11月15日	湯野温泉・芳山園	：テーマ「道」	ファシリテーター	中嶋克成
第3回	12月6日	湯野温泉・紫水園	：テーマ「湧く」	ファシリテーター	鏡裕行

実施済みの第1回は「出会う」をテーマに温泉知研究会の寺田のファシリテートのもと、8名がサロンに参加した。各参加者の発言をテキストマイニングし、共起ネットワークを作成したのが下図である。抽出数に応じて円の大きさを変えている。「出会い」や「出会う」を中心に議論が展開され、右側「人」「旅」「本」などの語が見られるカテゴリーでは、「出会い」の「対象」について、左側「求める」「意味」などの語が見られるカテゴリーでは「出会い」

の意義についての議論がなされた様子が見て取れる。

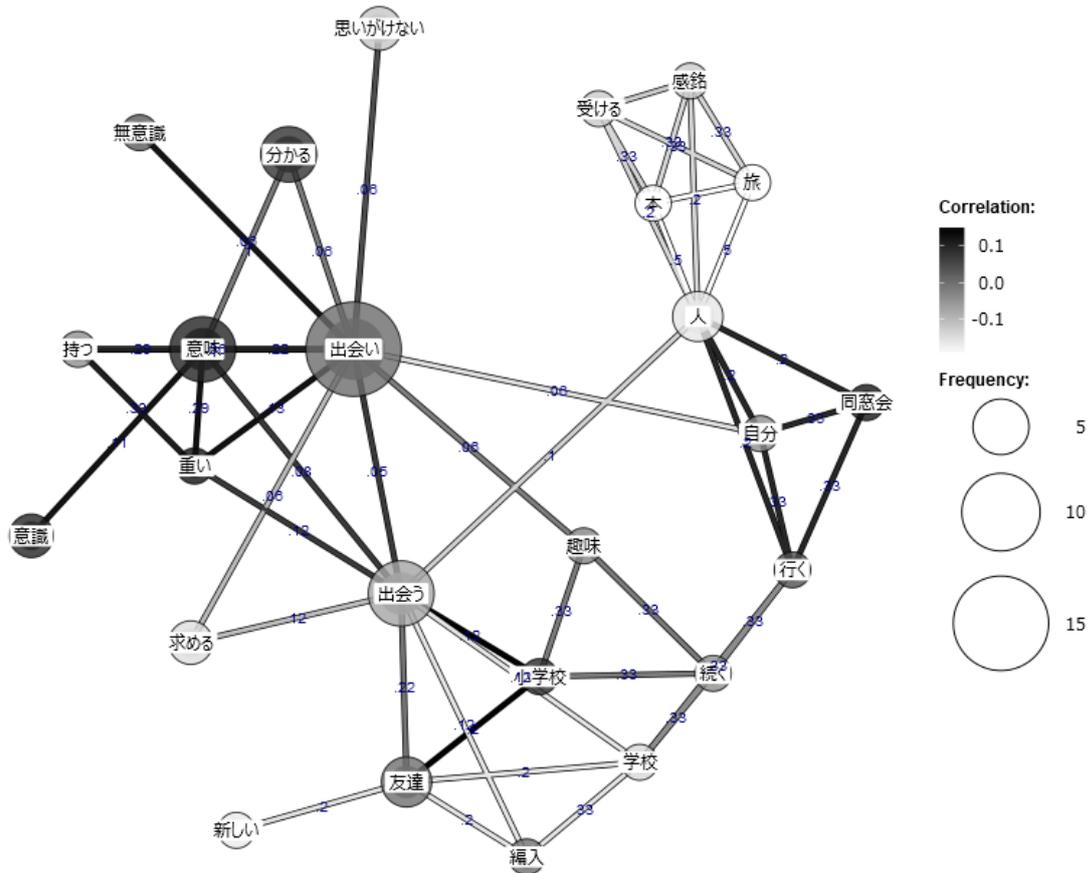


図.温泉知サロン第1回参加者の発言

#### 4. 課題と今後の展望

今回の参加者の感想として、サロン前に入浴した参加者からは「温泉に入って話ができるのでリラックスした雰囲気ではしゃべることができた」などの回答がみられた。温泉と学知を掛け合わせることで参加者の学知へのアクセスが容易になった可能性がある。

一方で、今回は初回の事始めということで行ったいくつかの課題も見られた。3でも述べたように本サロンでは議論の途中での入浴や飲食は自由であったが、実際に途中で入浴された参加者は1名のみであった（サロン前に入浴した参加者は4名）。サロン後に入浴された3名の参加者については温泉地のリラックス効果を十分生かしていたかは第2回以降のアンケート結果をもとにさらに検証する必要がある。

#### 【謝辞】

本研究は、環境省「新・湯治コンテンツモデル調査」補助金の交付を受けて行われた。本調査にご協力いただいた「温泉地知サロン」第1回一般参加者及び学生参加者に深く感謝いたします。

#### 【注】

- 1) 温泉知研究会は、湯野温泉における令和3年度「新・湯治の効果に関する協同モデル調査業務」に携わった周南公立大学（元・徳山大学）教員を中心とするメンバーで構成されている。  
○○○○：「タイトル」, 雑誌名, Vol.46, No.5, pp.154-163, 2010.
- 2) 「チーム 新・湯治」は、温泉地を中心とした自治体、団体、企業等による多様なネットワークづくりを目指した取組である。
- 3) 公益財団法人日本交通公社：「令和4年度新・湯治の効果に関するコンテンツモデル調査」  
<https://www.jtb.or.jp/shintouji2022-1/>（参照日 2022年11月1日）
- 4) 鏡裕行, 寺田篤史, 中嶋克成：「新・湯治の効果に関する協同モデル調査（令和3年度調査結果）（数理モデルに裏打ちされた新・湯治プログラムの提案）」  
[https://yuno-onsen.jp/\\_file/ja/cms/1151/file/2/](https://yuno-onsen.jp/_file/ja/cms/1151/file/2/)（参照日 2022年11月1日）

（問い合わせ先 [Nakashima\\_k@shunan-u.ac.jp](mailto:Nakashima_k@shunan-u.ac.jp) 中嶋克成）